

きました。返信集計の結果は、4月1日現在会員数60名、回答（賛成）39名、返信無し21名で、反対意見はございませんでした。この結果を以って下記総会議案は全て原案通り可決されましたことをご報告致します。ありがとうございます。

- 第1号議案 2021年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 2021年度 収支決算承認の件
- 第3号議案 2022年度 事業計画（案）承認の件
- 第4号議案 2022年度 予算（案）承認の件

今年度の運営に向けて

荒井 正人

今回の書面による総会で代表を仰せつかりました。月並みな言葉ですが、錚々たる会員の同好会であり、身の引き締まる思いです。私は強力なリーダーシップは備えておりませんし、今の本部役員も存じ上げません。ただ緑爽会では大先輩方と親しくお話もさせていただいていますし、会報担当となってからは、メールやお手紙で随分やり取りをさせていただきましたので、ほとんどの方の、顔と名前が一致するくらいになりました。協調性はあるということでしょうか。そうしたコミュニケーションを大切に、これまでの方針を踏襲して、楽しく元気な会になればいいなと思っています。

今はコロナで活動がままなりませんし、この先も読めない状況ですが、幹事の皆さんのお知恵もお借りして工夫し、新しいことにもチャレンジしていきたいと思えます。山歩き、講演会を中心に、遠方の会員の皆さんとの交流も考えたいと思えます。また、会員を繋ぐザイルのようなものが会報です。小林さんをはじめ、新しく加わっていただく方の知見でより読み応えのある会報作りを目指していきたいと思えます。様々な話題で楽しく談論風発、といったクラブライフが実現することになれば最高ですが。

振り返ると、2012年に中村好至恵さんと知り合えたことが、翌年のロッジ山旅で長沢さんと会うことに繋がり、JAC入会へと進んで、松本さんと長沢さんのご紹介をいただいて入会したのでした。その経緯から図書委員会と緑爽会に属することは運命だったのでしょうか。その秋の講演会（シンポジウム）「高橋健治とローゼ夫人の生涯」では、話の中で同姓同名の荒井正人さんが出てきて鳥肌が立ちました。

まだまだ若輩者ですが、皆さんにご意見もいただきながら、幹事の皆さんと会運営にあたっていきたくと思っています。引き続き何かとご協力の程、よろしく願い申し上げます。

近況報告（皆様からいただいた近況をまとめました）

山口 節子 富澤様、夏原様、長い間ありがとうございます。当方、気力・体力ともに減退。忘れもの、なくしもの、勘ちがい、思いちがい、で、毎日笑っています。皆様お元気で。

田邊 壽 91歳近く、元気です。来月は中村保さんと鳥海山へ出かけます。

芳賀 孝郎 いつも緑爽会でお世話になりありがとうございます。総会報告と名簿表をいただきありがとうございます。今後もよろしく願い申し上げます。我が家にはまだ多くの雪が残っています。

山本 良子 あらためて、富澤代表、夏原副代表。本当にありがとうございます。新しい役員会の皆様、どうぞよろしく願います。ルームに楽しく集うことの出来る日を楽しみ

にしております。

- 田村佐喜子 厳しい寒さだった松本も今頃急に春めき、桜の満開です。常念、大滝の山も、日に日に雪が解け、山肌が現になってまいりました。町はずれに行くと鹿島槍、五竜、白馬岳に続く北の果てまでの白銀の山稜が見えます。美ヶ原、鉢伏山も頂上に残雪を残すのみ。続けて南へとたどっていきますと南アルプスの山々がかすんで見えています。人間の方はコロナの外出制限で、庭の草むしり、家の片づけにも飽き、寝ころんで読む本は『人間であることをやめるな』（半藤一利著）です。早く上京出来ます日を願っています。
- 五十嶋一晃 『薬師岳・奥黒部の博文 北アルプスど真ん中の自然と人を守る太郎平小屋のオヤジ』と題する書籍を執筆中です。
- 梨羽 時春 3月にフェルメールの絵を観に上野へ行き、美術館内で転んでしまいました。係の人が車椅子で会場を廻ってくれて大名気分でした。
- 松本 恒廣 緑爽会は1995（平成7）年9月の理事会で同好会として承認された。それまで自然保護委員だったメンバーのうち、梨羽、松本、近藤緑、関塚、渡部が健在である。取敢えず、次の30周年目指して頑張ります。緑爽会の会務、富澤さん、夏原さん有難うございました。
- 佐藤 淳志 酒田はコロナが全く止まりません。人口の数が少ない町ですが残念です。いつか皆さんと会えることを楽しみにしています。
- 福田 光子 近年、稀にみる大雪の冬でしたが、里の雪はあっという間に消えました。近くの太平山は残雪で真っ白ですが、ブナの根開きが大きくなり、雪が消えたばかりの山道には我先にと花々が咲き始めました。コロナとは長い付き合いになりそうですが、3回目のワクチン接種を済ませたら、少しは行動できるかと期待していたのですが、又遠くなりました。山も都会も遠い今は、緑爽会の会報が楽しみです。
- 近藤 裕 91歳となりましたので、毎朝のウォーキングと週1回の体操教室に通っています。コロナ禍が早く終息して、皆様にお会い出来る日を心待ちにしております。会務の処理、お世話様です。感謝。
- 関塚 貞亨 3月下旬、97歳になりました。老いは進み弱ってきています。会報4月号に「私がオーディオに凝ったわけ」を投稿しました。山は遠くなりました。只、眺めるだけになっています。坂や階段は10歩ごとに30秒ぐらい休みます。全くなさけない。
- 吉田 理一 今年10月から後期高齢者になるのを機に本年3月末をもちまして新潟県立塩沢商工高等学校を退職いたしました。高校教師は成りたくてなった職業です。47年間の長きにわたり教壇に立てたことは幸せでした。4月からは豪雪地・新潟県津南町の農地約400坪で畑作農業を楽しみます。3月31日現在の津南町役場前の積雪は122cm（昨年は66cm）、雪消えを前に豆トラ・除草機・チェーンソーの整備をしています。
- 里見 清子 初詣は恒例の甲斐駒ヶ岳の登山口、横手と竹宇に祭られている駒ヶ岳神社にお参りしてきました。今年は横手の神社では初めて拝殿に招かれ、慣れないことでしたが気持ちを入れてしっかりお参りが叶いました。秩父神社では寅年の今年は左甚五郎作の「子宝 子育ての虎」を観てお参りしてきました。塩山の小倉山の麓に咲くザゼンソウが、今年も可愛い姿で迎えてくれました。何年前になりますか、小倉山に登った後で麓の小さな茶店に集まり、小倉厚様の「しのぶ会」が思い出されます。梅の季節に

しますね。コロナ禍が早く終息することを願いつつ・・・。

- 辻橋 明子 富澤様、夏原様永らく会の代表、副代表のお役目を御世話になりました。有難う御座いました。これからも緑爽会を宜しくお願い致します。
- 富澤 克禮 コロナ禍のここ2年間は、遠くの高い山にも、海外にも行けず、ストレスの解消と体力維持のため、専ら、高尾山に足を運んでおります、植物が豊富で、初めて見る植物や花を教わったり、見つけたりして喜んでおります。
高尾山の虜になり、家事や終活のためにやらねばならないことをほったらかしにしているような状態です。2021年は、272日登りました。薬王院の「健康登山」は、高尾山登山のモチベーションになっていることは、確かです。あと3~4年は、歩きたい...と思っております。
- 夏原 寿一 元・緑爽会会員でアルパインフォトクラブの発起人でもある梅本知榮子さんから、ご自身の所属している山岳会の写真展の案内ハガキを今年も頂いたので行ってきました。作品は梅本さんのフィールドである剣岳がメインで、作風は雄大。梅本さんはモノクロ写真がお好きで、以前は毎回モノクロ作品を出展されていたが、デジカメのモノクロ機能ではフィルム写真のような味が出ないので、モノクロはやめたとのことでした。フィルム写真時代、フィルム現像から引伸しまでを一手に引き受けていたのは、広告写真を生業としているプロの写真家だが、思いがけないことからその写真家は私の写真仲間ということがわかった!! 人はどこかで繋がっているものなのかもしれない。
- 田井 具世 何時も有り難う御座います。気温の定まらぬ日々お体お気をつけくださいますように。
- 鎌倉 淑子 体力がなくなり、大好きなスキーが出来なくなりました。平地を歩くことは、まだ大丈夫です。
- 渡邊 貞信 皆様 こんにちは！今年こそは皆々様に直接お会いするのが楽しみでしたが残念ながら実現せずに誠に残念です。
【会計の立場から】大変ご面倒様ですが、今年度の会費の納入は、目標として6月末日までに緑爽会の口座にお振り込み頂ければ幸いです。
- 石塚 嘉一 今年の近況報告もまた、できなかったことの報告になります。昨年7月の梅雨明けすぐに、田淵行男が高山蝶の生態の研究に通った一ノ沢から常念乗越に上って20年ぶりに常念岳に登りたいと計画したのは、仕事が入ってキャンセル。次は奥白根に登ろうと白根温泉に予約を入れたのは、大雨で一度延期して、またキャンセル。それではと、初秋に、田淵行男が定宿にしていた乗鞍高原の「けやき荘」に予約を入れたけれど、コロナ感染者の急増で、2回延期して3回目でも来年(2022年)を約束して諦めました。10月に、何とか20年ぶりに谷川岳に登ってきました。年末から2か月半の翻訳仕事から解放されて、いま春の低山を草花や蝶を求めて毎週のように歩いています。
- 中村好至恵 昨秋は皆様に日野春アルプ美術館の個展にかけての会行事にご参加いただき、ご高覧もいただき感謝しております。また長い間、会の重責を担って頂いていた富澤様、夏原様は今期でご退任とのこと。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。
- 荒井 正人 恒例の上野村山開きに参加し、笠丸山の岩稜に咲くアカヤシオを堪能しましたが、危なっかしい岩場や急な下りでは、バランスが悪いあと痛感します。山歩きを続けながら、山岳会(界)の歴史や、山の文化も深めていこうと思っています。

- 横関 邦子 コロナウイルスのこと、ウクライナのこと、未来に向けてのSDGsのこと、10年後-20年後も生きているなら健康でうろうろ動きまわりたいこと、いろいろ考えながら日々しなければならぬ仕事、家事、趣味などに追われている。
- 今、春の新芽が美しく、川越祭りの山車の寸法に合わせて刈り込んだ庭のキンモクセイの木は、たくさんの新芽が出て形がちょっと崩れたが、私は新芽の優しい色合いと、元気に伸びている枝の様子が好き。山も美しい新緑の季節。行きたいと思いながら、年度末/年度はじめの金融業界のレポートに、数字やグラフの校正などコンピュータの前で、四苦八苦ししている。
- 昨年あんずジャムを作った時の50個ほどの種をプランターに押し込むように埋めておいたら、30本ほど芽が出て、15cmほどに成長した。どこに植えようか迷っている。
- 相良 泰子 私は緑爽会では一番新しい会員でございますが、富澤代表様に大変お世話になりました。長らく緑爽会の代表をお勤め頂きましてありがとうございます。全てコロナ禍のことでもございましたので、ご挨拶も出来ずにおりましたところ、やっと「さがみこべりーガーデン」でお目に掛かれて嬉しく存じました。山に関する事も、まるでわからないので、これからもご指導を宜しくお願い申し上げます。6月の「さがみこべりーガーデンの見学とBBQ大会」を楽しみにしております。
- 藤下美穂子 コロナが収まらない中、ウクライナへの侵攻が始まり、世界中に、また日本にも避難される方もあり、心配な日々が続いている。野山は春の花々が咲き乱れ良い季節になった。戦禍にある人たちこそ、風のそよぎ、芽吹きを早く感じられるようになってほしい。早い終息を祈りたい。そして緑爽会の皆さまにも早くお会いしたく思う。
- 小原 茂延 ここ3年、コロナという名を使わぬ日があまりない程、地球は席捲されています。まことに人類の卑小さを思い知らされ、数千年に亘る医療というものの中身を知った。というのも「ヒポクラテスの教え」のようなものを半年位前に東海支部のN氏のブログで知り、味わってみると、何のことは無い、数千年前にヒポクラテスの言った事は、現在に通じていることばかり、何と根源的なものは変わっていないことよと今更ながら感じた次第です。新体制になるようで、世代交代は止むを得ない事ですが、日本山岳会創立時の小島烏水の掲げた、「山岳文化の精神」をバックボーンに魅力ある活動を継承するよう期待します。
- 小林 敏博 コロナ禍が3年目に入りましたが、その影響でこの2年間の山行はめっきりと減ってしまいました。そうは言っても家の中に籠もってばかりではいられませんので、近所や都内の散策を増やしています。牛込台地をいろいろと歩き回って坂巡りをしたり、都内の富士塚巡りをしたりなど、その度に思ってもみない小さな発見があったりと、それなりに楽しんでいきます。コロナ禍が早く収まり、楽しい会山行や会合が以前のように実施できることを願っております。
- 栗城 幸二 後掲の「入会にあたって」をご覧ください。

(いただいた近況は基本的には原稿通りとしていますが、行を詰めたり、少し省略したり文字を変えた部分もあります。ご了解の程お願いいたします)

太平洋戦争中期まで

1917（大正6）年5月22日生

1938（昭和13）年11月ニュースカメラマンとして同盟通信社へ入社。

同年12月上海へ、その後北支、中支、南支の各戦線の従軍カメラマンとして、陸軍山砲部隊などで活動した。そこで中国軍のチェコスロバキヤ製機関銃攻撃に時々遭遇した。

1940（昭和15）年3年間の日支戦線から帰国した。11月紀元2600年式典が皇居前広場で開催された。その式典撮影カメラマンとして選抜された。

その年大毎、朝日、読売、同盟のニュースカメラ班は一つに統一されて日本映画社となり、潮田氏は日映社員となった。

1941（昭和16）年12月8日太平洋戦争勃発。

1942（昭和17）年1月ペナンの潜水艦基地に派遣された。この基地にはイ60号からイ64号までの5隻が配属されていた。当時日本は75隻の潜水艦を持っていた。

山本五十六連合艦隊司令長官が視察に来られた。その後、山本は航空機での移動中に暗号を読まれアメリカ軍に撃墜された。基地では往復3ヶ月を要してドイツから生還した潜水艦にも出会った。

その後サバン島の海軍航空隊の報道班へ移動した。マレーシア半島の西端にあるインド洋に面した島であった。

サバン島では中型攻撃機が毎日8機でインド洋の敵艦を捜索するのが目的であった。もし敵艦隊を発見したら直ちに敵艦隊の編成を基地に打電する。発見した機は、当然敵艦隊の戦闘機に撃ち落される運命であった。毎日敵艦隊を見つけないよう祈っていた。

1943（昭和18）年航空母艦「瑞鶴」に乗る。ミドウェー海戦では、海軍の作戦失敗でアメリカ軍に迎え撃たれ、壮烈な戦いの末に敗れた。

日本海軍には9隻の航空母艦があった。この海戦で「赤城」「加賀」など主力母艦の数隻が撃沈された。無傷だったのは「瑞鶴」1隻だけであった。瑞鶴に乗艦した報道班員は潮田氏一人であった。記事を書き、写真を撮り、映画を撮り、一人三役の仕事であった。「瑞鶴」は排水量3万トン、飛行甲板300m、戦闘機、艦上攻撃機、艦上爆撃機各30数機、合計100機が搭載されていた。乗組員は2500名。

ガダルカナル島の撤収作戦

ミドウェー海戦後のその年に、潮田氏は小さな2400トンの航空母艦「隼鷹」に乗り移った。この航空母艦は商船・樫原丸を急遽改装したもので、昭和17年5月竣工で48機の飛行機を搭載していた。

当初ガダルカナル島には九州の124連隊が守備についていた。アメリカ軍が制空権と制海権を持っているため、数千名の将兵は補給が出来ず殆どの兵隊は餓死した。生き残った200余名の将兵を救出する作戦であった。夜中駆逐艦で海岸に接近して救出した。その兵士を「隼鷹」に乗船させた。痩せこけて兵士は目だけが異常に輝いていたと記されている。

インパール作戦

1944（昭和19）年1月アンダマン島に敵前上陸したある日、日映本社から指令が飛び込んできた。陸軍最大の失敗作戦と言われたインパール作戦へ参加せよとの命令であった。

インパール作戦には31師団の他15師団33師団その他数師団の編成部隊。10万人以上が投入さ

れた。メイミヨウからインパール迄は 400 km あった。1944 年 4 月作戦が開始された。

ジャングルの中の行軍、補給部隊はことごとく英インド軍に攻撃された。雨季のジャングルの中で 10 万人余の将兵は全くの陸の孤島に取り残された。

潮田氏は中国戦線で先輩から教えられた「死ぬまで離すな」と言われた岩塩をなめながら歩き続けた。潮田氏はこれ以上に部隊と共に行動しても意味がないと判断した。同盟通信の野口記者と共に師団参謀にメイミヨウまで後退したい旨の相談をした。参謀は即座に「あなた方は死んではいけない。生きてこの状況を必ず伝えて欲しい」と手を握った。

途中のジャングルの中は惨憺たるものであった。野戦病院は医師も看護婦も見当たらず、死体は埋めることもなく、いたるところに放置されていた。

インパール作戦の記録フィルムは師団司令部を経て東京へ発送した。300 フィートのフィルムは東京に着いていた。この作戦で、ビルマ人、インド人含めて 16 万 4 千人が犠牲になった。

1944年11月レイテ島に逆上陸

一度フィリピンから撤退したマッカーサー将軍が真珠湾第 24 師団を率いて、再びフィリピン・レイテ島東岸に上陸したのは 10 月 17 日であった。

このマッカーサーの率いるアメリカ軍を迎え撃つため、満州での陸軍最精鋭部隊の第一師団を急遽レイテ島に逆上陸させることになった。

潮田氏はインパール作戦からようやくマニラに帰った時、日映本社より、マニラから第一師団に従軍するように指令を受けた。第一師団の将兵と 13 名の報道班員は 4 隻の貨物船に乗船した。海軍の艦艇に守られた船団は、昼間はバラバラになり島影に隠れながら、夜だけ航行し爆撃を受けずに 11 月 1 日夜明け前、レイテ島オルモック湾入口に到着した。オルモック湾は 14 日前アメリカ軍の上陸した太平洋側山脈を挟んだ反対側である。

夜明け前に上陸が開始された。この日は風が強く、海が荒れ上陸は困難を極めた。舟艇に乗り移れない兵士は次々と海へと落ち悲惨であった。この上陸作戦のフィルム原稿 500 フィートは金華丸の船長に託され、内地でニュース映画として公開された。

上陸した将兵は、一切の補給がなくなり、フィルムの補給もなくなった。アメリカ軍の攻撃は日夜激しくなり、砲弾は降り続いた。逃げるにも逃げ場がなくなり袋のネズミとなった。こんなバカバカしい戦争をなくするには地球が一つになることしかないと言った潮田氏は考えた。

13 名の報道員の内 3 名はインパール作戦とニューギニア戦線の経験者であった。3 名は第一師団参謀からマニラ司令部行き命令書を書いてもらった。

3 人が海岸に向かう山道には、日本兵の腐敗した死体がゴロゴロとあり、まだ少し動ける人もいた。この辺り一帯は負傷者と人と死体が群をなし、まさにこの世の地獄であった。

装甲艇でセブ島に渡り、そこから戦闘機に乗りミンダナオ島に到着した。

マニラに着いたのは、レイテ島を出発してから 10 日目であった。その当時マニラはアメリカ軍が迫っているのが騒然としていた。日本人はマニラからバギオへの脱出中であつた。途中度々アメリカ軍機の攻撃を受けた。隊はバラバラになり、潮田氏は単独で歩き出し、ツゲガラオ飛行場を目指した。そこで運よく双発高等練習機に乗ることが出来た。台湾の高雄に無事到着した。その後台北でしばらく休養して日本行の飛行機を待った。

(以下次号に続く)

只見 YH スキーコーチから JAC 入会そして緑爽会へ（その 2）

吉田 理一

私が日本山岳会に入会したのは、海外遠征登山隊の一員として加えていただき外国の山に行きたい訳でもない、登山講習会に参加して登山技術のレベルアップをはかりたい訳でもなく、山行の仲間を求めてでもない。

1977 年頃朝日新聞に全国の特徴ある図書館がシリーズで紹介された。日本山岳会の山岳図書館も取り上げられた。その新聞記事をスクラップしておかなかった事が悔やまれるが、45 年あまり経った今となっては後の祭りである。記憶している新聞記事の内容は「国立国会図書館にも無い山岳書がある/蔵書の約 20%は洋書でこの会の知的水準の高さがうかがえる/閲覧は原則会員に限る」といったものであった。

あの山岳図書館を自由に利用するためには JAC 会員になる必要があったからである。

只見 YH には JAC 会員である奥様と縁のある JAC の会員も何回か訪れている。1975 年 11 月 JAC 婦人部の関田美智子さん他が浅草岳登山と懇親会を兼ねて宿泊されている。

1976 年の正月、奥様の山仲間の女性二人がスキーを担いで只見 YH に見えられた。乾燥室で見た事の無いビンディングの短いスキーに初めてお目にかかった。因みにその頃の私のスキーの長さは 2 メートルだった。私は田舎に住んでいて山スキーというものがある事は知っていたが、当時実物を見た事が無かった。後年自分で山スキーをするようになってからあのスキーは山スキーだったという事が分かった。お二人は戸隠の山からの帰りだった。そのうちのお一人が 5 ヶ月後の 5 月 3 日、奥穂高岳～西穂高岳稜線の間ノ岳で滑落死したと聞かされた。36 才の若さで亡くなられたのは関田美智子さん(5932 番)だった。会報「山」373 号(1976 年 7 月号)に只見 YH の奥様による追悼文が載っている。

1978 年 5 月の連休には三水会現地集会で沼倉寛二郎、坂倉登喜子、黒石恒、高田真哉、片岡博氏他の会員が訪れている。また、1981 年 10 月には三水会の荒野康子(8604 番)さんパーティーが宿泊し浅草岳入叶津コースから入山し、只見沢コースを下山している。

1985 年 4 月、異動で新潟市内勤務となった。新潟三越百貨店 8 階には(財)新潟県 YH 協会入会受付事務局があった。1988 年から 8 年間、その YH 協会事務局長としてボランティアで主として会計帳簿や所轄官庁に提出する予算・決算書・財産目録等公文書作成の業務を手伝った。六日町には(財)日本 YH 協会直営の大規模な六日町 YH があり、支配人の U さんからは事務局長退任後も情報を提供して戴いていた。1994 年 4 月からは六日町の隣町の塩沢町(現南魚沼市)にある勤務先に転勤となった。

六日町 YH には毎年残雪の頃、日本山岳会の女性だけの歩くスキーの同好会「山げらの会」が訪れていた。私も近くに在住する日本山岳会会員という事で何回かスキーツアーに参加させていただいた。この縁で支配人 U さんは日本山岳会に入会された(入会紹介者小倉薫子・早川瑠璃子)。

山げらの会は女性だけの会で男性は入会できないが、会友として数名の男性が在籍していて、私も 2016 年会友の一員に加えていただいた。



浅草岳スキーツアーで華麗に滑る筆者

只見 YH の斎藤多美子さんは 2002 年に亡くなられた。翌年 7 月一周忌に只見町にお参りに伺った。故人の遺志で遺骨は竹芝栈橋から出港した船で太平洋に散骨された。無宗教の祭壇には「斎藤多美子様散骨の儀」の式次第と上高地河童橋でエーデルワイスクラブ坂倉会長と並んだ遺影が飾られていた。

緑爽会会員が主体となって当時開催されていた「自然と人間の暮らしを考えるフォーラム IN」には 4 回参加した。

2000 年 8 月 秋山郷・苗場山

2001 年 8 月 山形遊佐八幡・鳥海山

2002 年 8 月 安曇野・雨飾山

2003 年 8 月 尾瀬・会津駒ヶ岳

この参加をきっかけに緑爽会の会員数名とお知り合いになった。

2003 年 9 月 29 日（月）～30 日（火）「故織内信彦名誉会員を偲ぶ一周忌八海山周辺の旅」が緑爽会例会として織内氏のご長女章子様も参加され六日町 YH で開催された。支配人から案内を戴き緑爽会会員ではないが参加した。早川瑠璃子さんから新潟の地酒の調達を依頼され「越乃寒梅」等を用意した。緑爽会の島田稔氏が十日町市・小倉厚氏が六日町ご出身である事もこの時お聞きした。この行事の報告は緑爽会報No.13 号・2003 年 10 月 15 日発行・参加者 29 名として記録されている。

宿泊した翌日 9 月 30 日は火曜日で、現職の私はネクタイを締め、そこから車で 15 分の隣町・塩沢町の勤務先に出勤した。近藤緑さんから「来月から毎月緑爽会会報を送りますので来年 4 月から緑爽会にお入りになりませんか」とお誘いをいただいた。

日本山岳会の同好会のうちアルパインスキークラブは山スキーの会、アルパインスケッチクラブは山の絵を描く会と大概同好会名から活動内容が分かる。「緑爽会」とは何を目的としている同好会なのか会の名前からは分からなかった。

緑爽会会報に 2004 年 1 月実施の緑爽会新年会の案内が載っていた。どのような方が在籍しておられて、どんな雰囲気同好会なのか分からなかったので参加してみることにした。会費千円との事、このような会費の新年会には出席したことが無い。おそらく会員が納入している年会費の中から相応の予算が組まれているのであろう。緑爽会会員でない私が会員と同じ要領で参加するのは如何なものかと考えていた。会報には「お持たせ歓迎」とあったので新潟の地酒「越乃寒梅」・「八海山」の一升瓶 2 本をリュックに詰めて行った。新年会の隣の席は早川さんで「近藤緑さんと私が入会紹介者になるので緑爽会にお入りになって」と誘われ 2004 年 4 月緑爽会に入会した。

2005 年 7 月早川さんから、「昨年 71 才で亡くなった弟の一周忌がある、会社関係の方が多数見えるのでお酒は新潟の地酒を用意したい」との依頼があり、「越乃寒梅・八海山・雪中梅・久保田・鉾張鶴等」を送った。早川さんは弟 I さんについては何も話されなかったが、後年他の JAC 会員から I さんは TBS-TV 社長で、当時日本民間放送連盟会長を務められた方だと知らされた。

金利の高い時代には JAC に終身会員の制度があった。在籍最低 10 年以上、20 年・30 年と 10 年毎に定められた終身会員会費を納めると終身会員になる事が出来た。私は 2000 年 2 月に終身会員にいただいた。私が終身会員になった当初は百数十名いた終身会員は、その後の低金利・ゼロ金利時代に入り新規入会受付は停止された。自然減により、毎年 10 名前後の会員が減少して 2021 年の JAC 総会資料によれば前年度比 6 名減の 21 名である。正確な終身会員の名簿は不明なので年齢構成は分からないが、最後の 1 人まで生き残った終身会員は緑爽会・越後支部の吉田理一会員だったといわれるのを目標に健康寿命を維持していきたい。

私がオーディオに凝った理由^{わけ}

関塚 貞亨

『山岳』第 114 年(2019 年刊)に「科学委員会でアナログレコードには重低音から 1 万 6000Hz の超高音まで正確に録音されている。人間は 1 万 Hz 以上の高音はよく聞きとれないが、超高音を忠実に再現する装置と少し歪んで再生する装置の違いは、ほとんど人には判る。その話に最も興味を示したのは三枝礼子さんだった」と書いた。

そして緑爽会会報の 2 月 178 号に夏原さんが「私とクラシック音楽について」書かれていたので、オーディオに凝ったいきさつを書くことにした。復員後、戦後の混乱期は食うために追われ音楽を楽しむ余裕もなかったが、2~3 年後には日曜ごとに青年たちが小学校の講堂に集まって時事問題を論じたり、音楽を聴く会合が持たれるようになった。

私の住んでいる三ツ沢は過疎地であったが、5 月 29 日の横浜大空襲では、そんな過疎地も焼夷弾の直撃を受け 3 分の 2 が焼け、我が家も焼けたが、無事だった家にビクトローラの大型コンソール蓄音機を持っている青年がいて、それで聴くレコードの音は素晴らしかった。

懐かしいワルターの未完成、トスカニーニ指揮のオペラ椿姫の 1 幕目、3 幕目の前奏曲、カザルスの白鳥、バッハの G 線上のアリアなどをうっとり聴いた。日比谷公会堂の N 響のコンサートもベートーベンのピアノ協奏曲第 5 番を聴いたが、交響曲は 3 番、5 番のほか年末の 9 番の演奏はあったが、第 6 番田園の演奏は記憶にない。

戦後 10 年から 15 年は仕事に追われ、音楽はたまにしか聴く余裕はなかった。そういう中でオーディオに凝るようになったきっかけは、娘の中学 1 年の夏休みの宿題が始まりだった。宿題は「クラシック音楽の 2 曲を聴き感想を書け」というもので、戦後も 17 年が過ぎた 1962 年のことだった。

ラジオでクラシックを聴ける保証はない。よし秋葉原でアンプとレコードプレーヤーを買い、スピーカーはヘッドホーンで間に合わせよう。7~8 万円以下で済んだと思う。1 曲目は勿論、交響曲第 6 番「田園」で、レコードは CBS ソニー、バーンスタイン指揮、NY フィルハーモニー、2 曲目はモーツアルトの「フルートとハープのための協奏曲」、ビクターでフルートはランパル、ハープはリリー・ラスキーヌ。ハープがあんなに美しい音の楽器だと思った名演だった。裏面は私が最も好きなクラリネット協奏曲だったが、娘は勿論フルートとハープで感想を書いた。娘の友達の何人かは家へ聴きに来て、同じ曲を聴いていたから、それを見た先生はどう思ったか、娘がどのように感想を書いたかは読んだが忘れた。

その頃のオーディオ雑誌には、最高の機器として、アンプはマランツ 8 で価格は 60 万円、スピーカーはジム・ランシング (JBL) オリンパスでペア 100 万円。紀州有田の木組み職人が作った美しい木組み格子を前面に飾ったスピーカーで、サラリーマンの年収 4~5 年分で買えるわけがない。

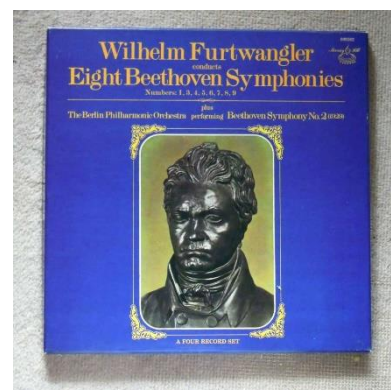
日本の電器メーカーはアメリカの後塵を拝していたが、70 年代の後半にソニーがレコードとオーディオの製造に乗り出したことで追いついたと思う。井深・盛田コンビによってトランジスターラジオで世界を席卷したソニーは、その後もテープレコーダー、カラーテレビ、ポータブルテレビで世界の名声を博していた。そこに芸大出身の音楽家で、いろいろ注文やアドバイスめいたことを言ってくる人がいて、ソニーがレコードとオーディオに乗り出すときに、その人、大賀を社長に委嘱して乗り出すことになった。

そして 70 年代の後半だと思うが、ソニーは日比谷公会堂で、マランツに追いついたアンプを開

発したとデモンストレーションが開かれた。耳のいい人だったら違いは判ったかも知れないが、私には判らなかつた。プリメインー体型で価格は10万円だった。

そのアンプと中古のJBLランサー104という小型の2ウェイスピーカーを格安で手に入れ、超高音に難があるので5000Hz以上をナショナルのアルミ削り出しのホーンスピーカーを足し、レコードに接するカートリッジには当時の最高級だったシュアーV15 IIを揃えると、何とか満足な装置となった。

早速交響曲第6番「田園」のレコードを揃えた。まず名演とされる戦時中の針金による録音のフルトベングラーのモノラルレコード、カラヤン指揮のベルリン・フィルのグラモフォンは第9だけだったか、そして異色のフランス人のアンドレ・クリュイタンスがベルリン・フィルを指揮した東芝EMIのレコードと、最初に手に入れたバーンスタイン指揮のCBSレコードを聴き較べた。



→ (写真) ベートーベン交響曲全集のレコード(フルトベングラー指揮)

第1楽章はジャズの国アメリカの軽やかなリズムのバーンスタインの演奏がよかった。第2、第3、第4楽章はフルトベングラーが絶品だ。特に第4楽章の嵐、遠いところから段々に近づいてきて、真上に雷が鳴り、少し遠ざかっていき更に雷は遠くへ去り、思い出したように木立の向こうに稲妻が光る情景描写は他の追随を許さない。まさに彼は天才だ。

美しいメロディが続く第5楽章、ベートーベンのロマンチックな人柄がよく出ている楽章はクリュイタンスの指揮がベスト、演奏を聴きながら恍惚のいつときを愉しんだものだ。

アナログレコードには演奏者や録音技師が意図しない？音も録音されていて、いい再生装置で聴くと思わぬ拾い物を聞くことがある。グレン・グールドがシカゴ・フィルをバックにベートーベンのピアノ協奏曲第4番を演奏するロンドン・レコード。グールドが小さい声でハモリながら気分よさそうに演奏しているかすれた声、その本当に小さな音が録音されている。コンサートホールの聴衆や、指揮者、楽団員には聞こえていない、かすかな小さなかすれ声を聞くことができるのは、オーディオ装置を持っている者だけの特権である。

オーディオで聞く人間の声、歌手の歌声はホールで聴く以上に素晴らしいと思う。女性ではエラ・フィッツジェラルドの「サマータイム」、ジュリー・ロンドンの歌う「霧のサンフランシスコ」、パティ・ペイジの「テネシー・ワルツ」、ドリス・デイの「ケ・セラ・セラ」。

男性歌手ではハリー・ベラフォンテの「ダニー・ボーイ」、アンディ・ウィリアムスの「ムーン・リバー」「酒と薔薇の日々」、ビング・クロスビーが歌う「ホワイト・クリスマス」。シナトラには私に偏見があつて好きではない。しかし彼と仲のよいディーン・マーチンが映画リオ・ブラボーで歌う「マイ・ポニー&ミー」は好きだ。そしてエルビス・プレスリーの「ラブ・ミー・テンダー」、パット・ブーンの「砂に書いたラブレター」、ビートルズの「レット・イット・ビー」「ヘイ・ジュード」などの歌の数々。別格というべきルイ・アームストロングの「この素晴らしき世界」。

歌手ではないがマリリン・モンローが映画「帰らざる河」で情感をこめて歌う挿入歌は絶品だ。

私が住まいの関係でオーディオから遠ざかって20年以上が経った。オーディオ製品も様変わりしているが、価格は50年前とあまり変わっていない。ただアナログレコードの溝に針で接するカートリッジでシュアーV15 IIと同格だったオルトフォンのカートリッジが、ヨドバシカメラで16万円と5~6倍の価格になっていたので驚いた。勿論そんな高価格のカートリッジでも買う人がいるのだろう。(編注:「マイ・ポニー&ミー」は「ライフルと愛馬」でご存知の方もおられると思います)

緑爽会入会にあたって

栗城 幸二

この度「緑爽会」に入会させて頂くことになりました栗城（くりき）と申します。

日本山岳会には昨年入会したばかりの新人ですが、いささか“トウの立った新人”で、寅年生まれの71歳です。

この年齢でまさか新たに山岳会に入るとは（入れるとは）全く考えておらず、お誘いがあった時は本当に入会して良いのかと考えてしまいました。

出身は北海道で、仕事については九州・東京・北海道等転々とし、一番長かった東京に永住することとなり、現在は国分寺市に住んでおります。

山を始めたのは、兄からのお下がり「キャラバンシューズ」が転がり込んで来たからでした。それを履いて「鳥海山」に登ったのが最初で、その時はまだ初々しい20歳でした。それから今日に至るまで濃淡はありますが、各地の山々を歩いて来ました。昨年、50年を経て再び鳥海山に登ったのですが、とても感慨深いものがありました。

登った山域としては、それぞれの赴任地で気の向くままに登っていたので、関西・四国方面を除いて割と広い地域の山々を歩いたかな、とは思います。

特にこの20年ほどは北海道での単身赴任でしたので、道内の山々でフルに遊びまわっておりました。山のスタイルは「山の中に居ればどこでも楽しい」です。その地域の山々に合わせて、楽しめる登山をして来ました。

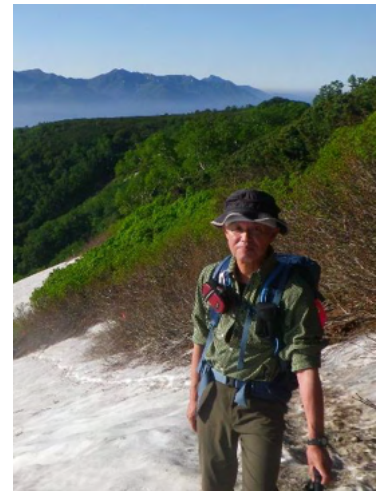
昨年夏（2021/6）に北海道から東京に戻って来てからは、近郊の低山巡りで奥多摩・奥武蔵・中央線沿いの身近な山々を歩いて楽しんでおります。

しかしながらこの1～2年は長年酷使して来たヒザが不調をきたしており（経年劣化ですね）、特に下りではヒザへの負担が厳しくなっており、何とかみなさんにご迷惑をおかけしないように頑張りたいと思います。

なお、日本山岳会に入会したきっかけは、昨年北海道を離れる際に山仲間が送別会をしてくれましたが、その時に何年も一緒に登っていた仲間が北海道支部の会員だったことが分かり、その時に「東京へ行くのならばぜひ」と紹介されたことによります。

北海道には「HYML（北海道山メーリングリスト）」という、山愛好者の親睦会みたいなもの（MLグループ）があります。この関係でパーティーを組んだりして結構一緒に登っていた仲間です。

緑爽会の皆さま、どうぞよろしく願いいたします。



大雪山系・白雲岳にて

+ + + + + ◆ + + 《ようこそ、ルームへ》 + + ◆ + + + + +

ブナを育てて

石塚 嘉一

今年も、4月に入って、鉢に植えた2種のブナが、去年の枯れた葉を一枚一枚落として、柔らかくて薄い緑が美しい新葉を伸ばしている。一つは、10センチほどの白神山地のブナの実生苗から育てたもの。10数年前、高尾山のさる園・野草園の前に並べてあったのを買ったのである。高尾山に

持ち物：通常の軽登山の服装。歩きやすい靴で。軽めの昼食と飲み物は持参ください。

参加費：6000円（入園料2000円＜ブルーベリー食べ放題＞BBQ3500円＜スムージー作りを含む＞
飲み物代等500円）・摘み取って持ち帰る場合は別料金。（店頭販売もあり）

※プレ会員となっている方は、「ベリー券」をご持参の上、それでお支払いください。

定員：20名（先着順）

担当：富澤、山川、荒井

申込：準備の都合もあり、6月11日（土）までに、下記へお申し込みください。

富澤

荒井

※天候の関係で24日に延期する場合は前日に判断してご連絡します。

7月例会：「暑気払い」コロナの状況から、ルームには使用制限があり、そこでの開催は困難です。リアルで顔を合わせ、語り、飲み食いすることを忘れてしまいそうですので、何とか工夫し、形を変えて実現したいと考えています。例えばベリーガーデンのように屋外で等。

会費納入の依頼

今年度も総会が開催出来ず、2022年度会費納入は振込でお願いいたします。出来ましたら6月末日までに以下の要領にて、＜年会費1500円＞を、お振込み願います。

- ・ゆうちょ銀行からの振り込み
- ・他の金融機関からの振り込み

会員異動

- ・新入会員：栗城幸二(16701)

178号の訂正とお詫び：前号で以下の漏れや誤りがありましたので、お詫びし、訂正致します。

- ・新年山行で行程記録が漏れていました。以下の通りです。

参考：行程記録

高尾駅北口（9：10）→ろくざん亭登山口（9：30～9：35）→金比羅台（10時～10：40）→山頂（12：30～13：20）→ケーブル山上駅（14時）→高尾山口駅（15時）

- ・深野久弥 山の文化館の大幡裕さんの記事「喫茶『穂高』再訪」において、芳野満彦氏の姓を吉野としていました。芳野が正しいので訂正いたします。

----- 編集後記 -----

私がこんなことになるとは思いませんでした。長沢さんの言われるままに、図書室の本が読みたいと思い、吉田さんに似た動機で入会したのでした。あまり変化を好む人間ではありませんが、とにかく今は状況をみて、フェイス・トゥー・フェイスで語れる場を作ることを目標に、工夫し、楽しくやっていたらと思っています。会報作成には以前からの横関さんに、新しく石塚さんと鳥橋さんにも加わっていただきます。（荒井正人）

『代表退任にあたって』を拝読し入会前に汁番でお会いした富澤代表に気さくに対応いただき、また入会後は夏原副代表に何も分からない中、丁寧にご指導いただいたことを思い出した。会の文化を継続、発展させられるよう新代表をサポートします。会員を繋ぐ会報へのご投稿もよろしく願います。（小林敏博）

次号予告＜6月27日発行の主な内容＞

5月山行報告ほか投稿・寄稿など。皆様からの投稿をお待ちしています！